

第4回定例研究会

情報のデジタル化が生み出した影 ー1990年以降の生活環境・企業活動・コミュニケーションに於ける考察ー

第4回定例研究会は、マーケティングコンサルタントの日下部徳彦先生をお招きして、「情報のデジタル化が生み出した影ー1990年以降の生活環境・企業活動・コミュニケーションに於ける考察ー」というテーマで講演いただきました。

【講師プロフィール】

1965年 神奈川県横浜市生まれ

1996年 慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科修士課程修了

2002年 早稲田大学芸術学校 生活デザインコース修了

専門領域は、情報デザイン、エクスペリエンスデザイン、インターフェイスデザイン、マーケティングマネジメント、プロダクトマーケティング、テクニカルマーケティング、ブランディング。

大学院終了後、ヤマギワ株式会社に勤務。ドイツ企業の事例調査から情報デザインの考え方に出会い、その重要性と将来的な必要性に気づく。実践業務で多角的に情報デザイン力を身につける方法を、自ら考え行動することを決意。

その後、ダッソー・システムズ株式会社、アドビシステムズ株式会社などの外資系IT企業にてマーケティング業務を担当、情報デザインの考え方を駆使してさまざまなマーケティング活動を実践する。

現在は、フリーランスのマーケティングコンサルタントとして企業のマーケティング活動を幅広く支援しながら、母校の学生への啓蒙活動にも取り組んでいる。

講師

日下部 徳彦 氏（マーケティングコンサルタント）

テーマ

情報のデジタル化が生み出した影ー1990年以降の生活環境・企業活動・コミュニケーションに於ける考察ー

講演日

2012年12月8日（土）14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

